

## 2) 魚卵・稚仔魚

### ① 調査概要

調査対象区域における魚卵・稚仔魚調査概要は表 3-121 に、調査対象区域の魚卵・稚仔魚調査位置は図 3-64 に示すとおりである。

調査対象区域では、海域 2 地点で魚卵・稚仔魚の現地調査が実施されている。

表 3-121 調査対象区域における魚卵・稚仔魚調査概要

項目	内容
調査機関	兵庫県阪神南県民センター尼崎港管理事務所
調査時期	冬季：令和3年2月23日、24日 春季：令和3年5月9日 夏季：令和3年9月16日 秋季：令和3年11月1日
調査地点	2地点 (No. 1、No. 2)
調査方法	魚卵稚仔ネットを用いた水平曳き（表層）による採取（約2ノット×10分）

出典：「尼崎西宮芦屋港港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港港湾管理者 兵庫県）



図 3-64 調査対象区域における魚卵・稚仔魚調査地点図

## ② 調査結果

調査対象区域における魚卵調査の結果は表 3-122 に、稚仔魚調査の結果は表 3-123 に示すとおりである。

魚卵の確認種数は、冬季調査で 0 種、春季調査で 1 種、夏期調査で 2~4 種、秋季調査で 1 種であった。

稚仔魚の確認種数は、冬季調査で 1~2 種、春季調査で 2~3 種、夏期調査で 4~5 種、秋季調査で 1 種であった。

表 3-122(1) 魚卵出現状況 (冬季)

項目	No. 1			No. 2		
	種名	個体数	組成比率	種名	個体数	組成比率
出現種類数	0			0		
出現個数 (個/1,000m <sup>3</sup> )	0			0		
主な出現種	—	—	—	—	—	—

注) 不明卵の特徴は以下のとおりである。

無油球形卵-1: 卵径 0.66mm

無油球形卵-2: 卵径 1.03-1.07mm

単油球形卵-1: 卵径 0.48-0.58mm, 油球形 0.07-0.15mm

単油球形卵-2: 卵径 0.60-0.70mm, 油球形 0.12-0.15mm

単油球形卵-3: 卵径 0.72-0.75mm, 油球形 0.15mm

多油球形卵-1: 卵径 0.71mm, 油球形 0.04mm

出典: 「尼崎西宮芦屋港湾計画資料 (その2) 一改訂一」(令和 6 年 11 月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

表 3-122(2) 魚卵出現状況 (春季)

項目	No. 1			No. 2		
	種名	個体数	組成比率	種名	個体数	組成比率
出現種類数	1			1		
出現個数 (個/1,000m <sup>3</sup> )	17			2		
主な出現種	コノシロ	17	100.0%	コノシロ	2	100.0%

注) 不明卵の特徴は以下のとおりである。

無油球形卵-1: 卵径 0.66mm

無油球形卵-2: 卵径 1.03-1.07mm

単油球形卵-1: 卵径 0.48-0.58mm, 油球形 0.07-0.15mm

単油球形卵-2: 卵径 0.60-0.70mm, 油球形 0.12-0.15mm

単油球形卵-3: 卵径 0.72-0.75mm, 油球形 0.15mm

多油球形卵-1: 卵径 0.71mm, 油球形 0.04mm

出典: 「尼崎西宮芦屋港湾計画資料 (その2) 一改訂一」(令和 6 年 11 月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

表 3-122(3) 魚卵出現状況 (夏季)

項目 \ 地点	No. 1			No. 2		
出現種類数	2			4		
出現個数 (個/1,000m <sup>3</sup> )	9,232			17,280		
主な出現種	種名	個体数	組成比率	種名	個体数	組成比率
	カタクチイワシ	5,403	58.5%	カタクチイワシ	17,220	99.7%
	サッパ	3,829	41.5%	単脂球形卵2	28	0.2%
				サッパ	23	0.1%
			単脂球形卵1	9	+	

注) 不明卵の特徴は以下のとおりである。

無油球形卵-1: 卵径 0.66mm

無油球形卵-2: 卵径 1.03-1.07mm

単油球形卵-1: 卵径 0.48-0.58mm, 油球形 0.07-0.15mm

単油球形卵-2: 卵径 0.60-0.70mm, 油球形 0.12-0.15mm

単油球形卵-3: 卵径 0.72-0.75mm, 油球形 0.15mm

多油球形卵-1: 卵径 0.71mm, 油球形 0.04mm

出典: 「尼崎西宮芦屋港湾計画資料 (その2) 一改訂」 (令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

表 3-122(4) 魚卵出現状況 (秋季)

項目 \ 地点	No. 1			No. 2		
出現種類数	1			1		
出現個数 (個/1,000m <sup>3</sup> )	3			31		
主な出現種	種名	個体数	組成比率	種名	個体数	組成比率
	カタクチイワシ	3	100.0%	カタクチイワシ	31	100.0%

注) 不明卵の特徴は以下のとおりである。

無油球形卵-1: 卵径 0.66mm

無油球形卵-2: 卵径 1.03-1.07mm

単油球形卵-1: 卵径 0.48-0.58mm, 油球形 0.07-0.15mm

単油球形卵-2: 卵径 0.60-0.70mm, 油球形 0.12-0.15mm

単油球形卵-3: 卵径 0.72-0.75mm, 油球形 0.15mm

多油球形卵-1: 卵径 0.71mm, 油球形 0.04mm

出典: 「尼崎西宮芦屋港湾計画資料 (その2) 一改訂」 (令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

表 3-123(1) 稚仔魚出現状況（冬季）

項目 \ 地点	No. 1	No. 2
出現種類数	1	2
出現個数 (個/1,000m <sup>3</sup> )	3	48
主な出現種	種名	種名
	個体数	個体数
	組成比率	組成比率
	破損個体 3 100.0%	カサゴ 46 95.8% スズキ属の一種 2 4.2%

注) 主要種は上位5種とした。

出典:「尼崎西宮芦屋港湾計画資料(その2)一改訂一」(令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

表 3-123(2) 稚仔魚出現状況（春季）

項目 \ 地点	No. 1	No. 2
出現種類数	3	2
出現個数 (個/1,000m <sup>3</sup> )	22	4
主な出現種	種名	種名
	個体数	個体数
	組成比率	組成比率
	カサゴ 10 45.5% イソギンボ科の一種 10 45.5% ハゼ科の一種 2 9.1%	カサゴ 2 50.0% 破損個体 2 50.0%

注) 主要種は上位5種とした。

出典:「尼崎西宮芦屋港湾計画資料(その2)一改訂一」(令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

表 3-123(3) 稚仔魚出現状況（夏季）

項目 \ 地点	No. 1	No. 2
出現種類数	5	4
出現個数 (個/1,000m <sup>3</sup> )	109	262
主な出現種	種名	種名
	個体数	個体数
	組成比率	組成比率
	ナベカ属の一種 61 56.0% サッパ 23 21.1% カタクチイワシ 18 16.5% ハゼ科の一種 5 4.6% カワハギ科の一種 2 1.8%	ナベカ属の一種 147 56.1% カタクチイワシ 98 37.4% ハゼ科の一種 15 5.7% カワハギ科一種 2 0.8%

注) 主要種は上位5種とした。

出典:「尼崎西宮芦屋港湾計画資料(その2)一改訂一」(令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

表 3-123(4) 稚仔魚出現状況（秋季）

項目	地点					
	No. 1			No. 2		
出現種類数	1			1		
出現個数 (個/1,000m <sup>3</sup> )	3			31		
主な出現種	種名	個体数	組成比率	種名	個体数	組成比率
	カタクチイワシ	3	100.0%	カタクチイワシ	31	100.0%

注) 主要種は上位5種とした。

出典:「尼崎西宮芦屋港湾計画資料(その2)一改訂一」(令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

### 3) 付着生物（動物）

#### ① 調査概要

調査対象区域における付着生物（動物）調査概要は表 3-124 に、調査対象区域の付着生物（動物）調査位置は図 3-65 に示すとおりである。

調査対象区域では、海域 2 地点で付着生物（動物）の現地調査が実施されている。

表 3-124 調査対象区域における付着生物（動物）調査概要

項目	内容
調査機関	兵庫県阪神南県民センター尼崎港管理事務所
調査時期	冬季：令和3年2月23日、24日 春季：令和3年5月9日 夏季：令和3年9月16日 秋季：令和3年11月1日
調査地点	2地点（No. 1、No. 2）
調査方法	ベルトトランセクト法による目視観察及び採取（0.5m×0.5m方形枠）

出典：「尼崎西宮芦屋港港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港港湾管理者 兵庫県）



図 3-65 調査対象区域における付着生物（動物）調査地点図

## ② 調査結果

調査対象区域における付着生物（動物）の出現状況は、表 3-125 に示すとおりである。

確認種数は、冬季調査で 26～42 種、春季調査で 22～23 種、夏季調査で 19～21 種、秋季調査で 22～33 種であった。

表 3-125(1) 付着生物（動物）出現状況（冬季）

区分		No. 1		No. 2	
冬季	出現種数	26		42	
	出現湿重量	263.55		1,038.76	
	刺胞動物	1.09	0.4%	67.52	6.5%
	扁形動物	1.38	0.5%	7.75	0.7%
	軟体動物	159.55	60.5%	546.40	52.6%
	環形動物	11.99	4.6%	22.54	2.2%
	節足動物	88.90	33.7%	385.10	37.1%
	その他	0.64	0.2%	9.44	0.9%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	コウロエンカワヒバリガイ	40.2%	コウロエンカワヒバリガイ	38.4%
		アメリカフジツボ	28.9%	アメリカフジツボ	32.0%
ウスカラシオツガイ		7.8%	ウスカラシオツガイ	10.8%	
マガキ		6.9%	タテジマイソギンチャク	3.4%	
イワホリガイ科の一種		5.6%	イソギンチャク目の一種	3.1%	

注1) 出現種数は0.25m<sup>2</sup>当たりの個体数を示す。

注2) 出現湿重量の左の値は湿重量を、右の値はその割合を示す。

注3) -は出現しなかったこと、+は湿重量0.1g未滿及び0.1%未滿を示す。

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）—改訂—」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）

表 3-125(2) 付着生物（動物）出現状況（春季）

区分		No. 1		No. 2	
春季	出現種数	23		22	
	出現湿重量	126.17		725.57	
	刺胞動物	3.84	3.0%	17.74	2.4%
	扁形動物	0.06	0.1%	0.39	0.1%
	軟体動物	92.23	73.1%	664.52	91.6%
	環形動物	11.00	8.7%	13.99	1.9%
	節足動物	17.94	14.2%	28.90	4.0%
	その他	1.09	0.9%	0.03	0.0%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	コウロエンカワヒバリガイ	37.4%	ムラサキイガイ	37.7%
		ウスカラシオツガイ	20.1%	コウロエンカワヒバリガイ	25.3%
ムラサキイガイ		10.2%	ウスカラシオツガイ	24.1%	
トンガリドロクダムシ		7.8%	イワホリガイ科の一種	2.4%	
アシナガゴカイ		6.6%	ホトトギスガイ	2.0%	

注1) 出現種数は0.25m<sup>2</sup>当たりの個体数を示す。

注2) 出現湿重量の左の値は湿重量を、右の値はその割合を示す。

注3) -は出現しなかったこと、+は湿重量0.1g未滿及び0.1%未滿を示す。

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）—改訂—」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）

表 3-125(3) 付着生物（動物）出現状況（夏季）

区分		No. 1		No. 2	
夏季	出現種数	19		21	
	出現湿重量	56.46		358.11	
	刺胞動物	0.16	0.8%	15.09	4.2%
	扁形動物	0.21	0.4%	0.23	+
	軟体動物	12.59	22.3%	195.81	54.7%
	環形動物	1.31	2.3%	3.60	1.0%
	節足動物	41.89	74.2%	143.38	40.0%
	その他	-	-	0.00	-
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	アメリカフジツボ	68.0%	コウロエンカワヒバリガイ	53.2%
		コウロエンカワヒバリガイ	10.8%	アメリカフジツボ	28.5%
ウスカラシオツガイ		6.2%	ヨーロッパフジツボ	11.4%	
ヨーロッパフジツボ		6.0%	タテジマイソギンチャク	3.9%	
アラムシロ		4.9%	ホトトギスガイ	1.3%	

注1) 出現種数は0.25m<sup>3</sup>当たりの個体数を示す。

注2) 出現湿重量の左の値は湿重量を、右の値はその割合を示す。

注3) -は出現しなかったこと、+は湿重量0.1g未満及び0.1%未満を示す。

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）

表 3-125(4) 付着生物（動物）出現状況（秋季）

区分		No. 1		No. 2	
秋季	出現種数	22		33	
	出現湿重量	185.60		427.18	
	刺胞動物	1.56	0.8%	11.87	2.8%
	扁形動物	0.29	0.2%	3.01	0.7%
	軟体動物	21.24	11.4%	164.06	38.4%
	環形動物	1.75	0.9%	7.12	1.7%
	節足動物	160.76	86.6%	239.33	56.0%
	その他	-	-	1.79	0.4%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	アメリカフジツボ	84.8%	アメリカフジツボ	50.7%
		コウロエンカワヒバリガイ	6.4%	コウロエンカワヒバリガイ	28.5%
ウスカラシオツガイ		3.9%	ミドリイガイ	8.1%	
ヨーロッパフジツボ		1.7%	ヨーロッパフジツボ	5.1%	
アシナガゴカイ		0.9%	イソギンチャク目の一種	2.6%	

注1) 出現種数は0.25m<sup>3</sup>当たりの個体数を示す。

注2) 出現湿重量の左の値は湿重量を、右の値はその割合を示す。

注3) -は出現しなかったこと、+は湿重量0.1g未満及び0.1%未満を示す。

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）

#### 4) 魚介類

##### ① 調査概要

調査対象区域における魚介類調査概要は表 3-126 に、調査対象区域における魚介類調査位置は図 3-66 に示すとおりである。

調査対象区域では、海域 1 地点で魚介類の現地調査が実施されている。

表 3-126 調査対象区域における魚介類調査概要

項目	内容
調査機関	兵庫県阪神南県民センター尼崎港管理事務所
調査時期	冬季：令和3年3月1日 春季：令和3年5月9日 夏季：令和3年9月16日 秋季：令和3年11月2日
調査地点	1地点
調査方法	底曳網による試験操業（底曳網：曳網10分程度/地点）

出典：「尼崎西宮芦屋港港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港港湾管理者 兵庫県）



図 3-66 調査対象区域における魚介類調査位置

② 調査結果

尼崎西宮芦屋港周辺における魚介類調査の結果は、表 3-127 に示すとおりである。

底曳網による確認種数は、冬季調査では7種、春季調査では15種、夏季調査では0種、秋季調査では5種であった。

表 3-127 魚介類（底曳網）調査結果

No	綱名	目名	科名	種名	冬季	春季	夏季	秋季	
1	二枚貝綱	フネガイ目	フネガイ科	サルボウガイ		1			
2	軟甲綱	エビ目	クルマエビ科	クルマエビ		1			
3			ワタリガニ科	イシガニ		1			
4				ガザミ	1				
5			シヤコ目	シヤコ科	シヤコ	2			
6	軟骨魚綱	トビエイ目	アカエイ科	アカエイ		1			
7	硬骨魚綱	ウナギ	ハモ科	ハモ				1	
8	硬骨魚綱	ボラ目	ボラ科	ボラ	(2)	(6)			
9		スズキ目	メバル科	メバル属の一種		(20)			
10			ハオコゼ科	ハオコゼ		1			
11			スズキ科	スズキ		2		1	
12			ヒイラギ科	ヒイラギ			11		
13			タイ科	クロダイ		3(26)	8(10)		
14				キチヌ		35	2		
15				クロダイ属の一種					(4)
16			ニベ科	シログチ					3
17			カジカ科	アナハゼ属の一種			(2)		
18			ネズッコ科	ヤリヌメリ			1		
19				ハタタテヌメリ			1		
20				ヌメリゴチ (ネズッコ)		2			
21			ハゼ科	マハゼ					1
22	ヒメハゼ			(3)					
23	カレイ目	カレイ科	マコガレイ						
個体数合計					43(31)	43(38)	0	6(4)	
種数合計					7	15	0	5	

注) ( ) は付着生物調査時に確認された個体数を示す (潜水目視または坪刈りで採取)。

出典: 「尼崎西宮芦屋港港湾計画資料 (その2) 一改訂一」 (令和6年11月、尼崎西宮芦屋港港湾管理者 兵庫県)

## 5) 底生生物

### ① 調査概要

調査対象区域における底生生物調査概要は表 3-128 に、調査対象区域における底生生物調査位置は図 3-67 に示すとおりである。

調査対象区域では、海域 2 地点で底生生物の現地調査が実施されている。

表 3-128 調査対象区域における底生生物調査概要

項目	内容
調査機関	兵庫県阪神南県民センター尼崎港管理事務所
調査時期	冬季：令和3年2月23日、24日 春季：令和3年5月9日 夏季：令和3年9月16日 秋季：令和3年11月1日
調査地点	2地点 (No. 1、No. 2)
調査方法	採泥器による採泥 (1地点当たり3回採泥)

出典：「尼崎西宮芦屋港港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港港湾管理者 兵庫県）



図 3-67 調査対象区域における底生生物調査地点図

## ② 調査結果

調査対象区域における底生生物調査の結果は、表 3-129 に示すとおりである。

確認種数は、冬季調査で 17～19 種、春季調査で 11～15 種、夏季調査で 3～5 種、秋季調査で 2～7 種であった。

表 3-129(1) 底生生物出現状況（冬季）

区分		No. 1		No. 2	
冬季	出現種数	17		19	
	出現個体数	2,681		2,423	
	紐形動物	0	0.0%	0	0.0%
	軟体動物	42	1.6%	683	28.2%
	環形動物	2,590	96.6%	1,723	71.1%
	節足動物	41	1.5%	17	0.7%
	脊椎動物	8	0.3%	0	0.0%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	シノブハネエラスピオ	79.6%	シノブハネエラスピオ	25.8%
		アシナガゴカイ	10.3%	シズクガイ	25.1%
		<i>Ophiodromus</i> sp.	2.2%	<i>Chone</i> sp.	21.0%
		チヨノハナガイ	0.9%	クシカギゴカイ	4.8%
	オウギガイ	0.9%	<i>Ophiodromus</i> sp.	4.5%	
	<i>Harmothoe</i> sp.	0.9%			
	<i>Chone</i> sp.	0.9%			
	ニホンドロソコエビ	0.9%			

注1) 出現個体数は㎡当たりの個体数を示す。

注2) 個体数の上位5種を示す。

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）

表 3-129(2) 底生生物出現状況（春季）

区分		No. 1		No. 2	
春季	出現種数	11		15	
	出現個体数	1,366		2,117	
	紐形動物	0	0.0%	16	0.8%
	軟体動物	200	14.6%	884	41.8%
	環形動物	949	69.5%	1,217	57.5%
	節足動物	217	15.9%	0	0.0%
	脊椎動物	0	0.0%	0	0.0%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	シノブハネエラスピオ	62.8%	シズクガイ	37.4%
		シズクガイ	14.6%	シノブハネエラスピオ	30.7%
		マルエラワレカラ	12.2%	カタマガリギボシソメ	16.2%
		アリアケドロクダムシ	3.7%	チヨノハナガイ	2.4%
	アシナガゴカイ	1.8%	クシカギゴカイ	2.4%	

注1) 出現個体数は㎡当たりの個体数を示す。

注2) 個体数の上位5種を示す。

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）

表 3-129(3) 底生生物出現状況 (夏季)

区分		No. 1		No. 2	
夏季	出現種数	3		5	
	出現個体数	1,060		1,480	
	紐形動物	0	0.0%	0	0.0%
	軟体動物	0	0.0%	0	0.0%
	環形動物	1,060	100.0%	1,480	100.0%
	節足動物	0	0.0%	0	0.0%
	脊椎動物	0	0.0%	0	0.0%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	シノブハネエラスピオ <i>Sigambra</i> sp. カタマガリギボシイソメ	93.7% 5.7% 0.7%	シノブハネエラスピオ カタマガリギボシイソメ <i>Cossura</i> sp. イトエラスピオ <i>Sigambra</i> sp.	83.8% 7.6% 4.5% 3.6% 0.5%

注1) 出現個体数は㎡当たりの個体数を示す。

注2) 個体数の上位5種を示す。

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）

表 3-129(4) 底生生物出現状況 (秋季)

区分		No. 1		No. 2	
秋季	出現種数	2		7	
	出現個体数	220		3,359	
	紐形動物	0	0.0%	0	0.0%
	軟体動物	0	0.0%	0	0.0%
	環形動物	220	100.0%	3,332	99.2%
	節足動物	0	0.0%	0	0.0%
	脊椎動物	0	0.0%	0	0.0%
	その他の動物門	0	0.0%	27	0.8%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	シノブハネエラスピオ イトエラスピオ	96.8% 3.2%	シノブハネエラスピオ <i>Sigambra</i> sp. イソギンチャク目の一種 カタマガリギボシイソメ イトエラスピオ	95.7% 1.6% 0.8% 0.6% 0.6%

注1) 出現個体数は㎡当たりの個体数を示す。

注2) 個体数の上位5種を示す。

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）

### 3.3.16 生態系

#### (1) 藻場・干潟

##### 1) 既存資料調査

「第4回自然環境保全基礎調査」における干潟の分布状況は、図 3-68 に示すとおりである。調査対象区域及びその周辺では、西宮市において、干潟が1箇所確認されている。確認されている西宮市の甲子園浜（2ha）は、大阪湾奥部に残された前浜河口干潟であり、干潟の海岸線は全て人工化され、高潮線には護岸が設置されている。

「第4回自然環境保全基礎調査 干潟・藻場調査報告書（干潟生物調査）兵庫県」によると、甲子園浜は大阪湾沿岸のシギ・チドリ類の渡来地として知られており、約18種のシギ・チドリ類が確認されている。また、「甲子園浜の干潟では、底生生物が少ない上に鳥類が多くみられるため、鳥による捕食圧が相当あるものと思われる。」と記載されている。

また、令和4～5年度に実施された「瀬戸内海における藻場・干潟の分布状況調査」（令和6年7月、環境省）によると、西宮市の甲子園浜において干潟の分布が報告されている。

なお、以上の調査において尼崎西宮芦屋港の周辺で藻場は確認されていない。



図 3-68 調査対象区域及びその周辺の干潟分布図

## (2) 調査対象区域及びその周辺地域における生態系

調査対象区域における生態系の指標としての注目種・群集は、「上位性」及び「典型性」の観点から選定されている。選定種及び選定理由は、表 3-130 に示すとおりである。

表 3-130 注目種・群集の選定種、選定理由

生態系の観点	注目種・群集	選定理由
上位性	シギ・チドリ類	貝類や甲殻類等のほか、魚類や昆虫類を採食し、生態系における高次捕食者である。
	クロダイ	魚類、多毛類や貝類等を摂餌し、海域生態系における高次捕食者である。
典型性	シギ・チドリ類	背後地で確認されている主要な鳥類であり、干潟等の浅海環境との関連が強い種である。
	カタクチイワシ	当該海域で確認されている主要な稚仔魚であり、沿岸環境と関連性が強い種である。
	シノブハネエラスピオ	当該海域で確認されている主要な底生生物であり、浅海域の環境と関連性が強い種である。

出典：「尼崎西宮芦屋港港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港港湾管理者 兵庫県）

### 【上位性・典型性】（シギ・チドリ類：鳥類）

浜甲子園鳥獣保護区の干潟では、春季及び秋季の渡りの時期に多くのシギ・チドリ類が確認されている。海岸や河口の干潟や湿地、河川などを生息環境とし、貝類や甲殻類などのほか、魚類や昆虫類も採食するため、生態系全体の消費者として重要であると考えられる。

### 【上位性】（クロダイ：海生生物）

タイ科の海水魚で、年間を通して尼崎西宮芦屋港及びその周辺で生息が多く確認され、海洋生態系の中で消費者として重要であることが考えられる。

アジ科の海水魚で、年間を通して尼崎西宮芦屋港及びその周辺で多くの生息が確認され、海洋生態系の中で消費者かつ餌資源として重要であると考えられる。

### 【典型性】（カタクチイワシ：海生生物）

イワシ科の海水魚で、尼崎西宮芦屋港及びその周辺地域の多くで稚魚が確認され、海域生態系の中で海鳥や海生動物の餌資源として重要であると考えられる。

### 【典型性】（シノブハネエラスピオ：海生生物）

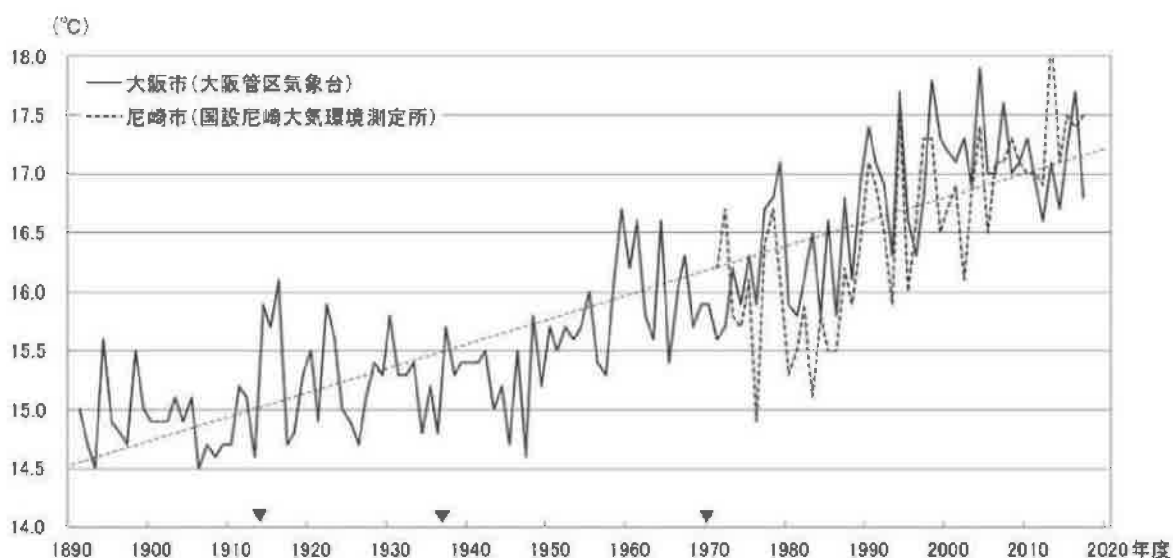
スピオ科の多毛類で、尼崎西宮芦屋港周辺で生息が多く確認され、海域生態系の中で底質中の有機物の消費者、また、底生魚類などの餌資源として重要であると考えられる。

### 3.3.17 地球温暖化

#### (1) 尼崎市における気温上昇

尼崎市における年平均気温観測値の推移は図 3-69 に、真夏日・熱帯夜の年間日数の推移は図 3-70 に示すとおりである。

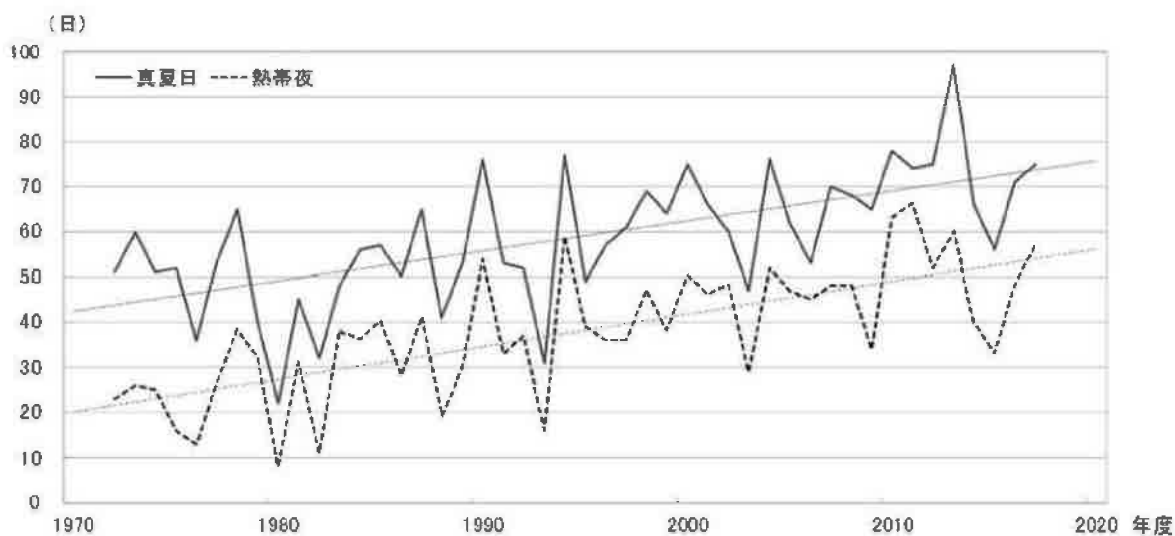
尼崎市周辺（大阪管区気象台）における年平均気温は、過去 100 年間で約 2℃上昇しており、特に 1950 年代から 2010 年頃にかけて顕著に気温が上昇しており、この傾向は本市（国設尼崎大気環境測定所）においても同様の傾向となっている。また、本市における真夏日や熱帯夜についても、増加傾向で推移している。



注 1) 図中の▼は大阪管区気象台において観測場所の移転、観測装置の変更、観測の時間間隔の変更により、前後のデータが均質でないことを示す

出典：「尼崎市地球温暖化対策推進計画」（令和 7 年 3 月一部改訂、尼崎市）

図 3-69 年平均気温観測値の推移（大阪管区気象台・国設尼崎大気環境測定所）



出典：「尼崎市地球温暖化対策推進計画」（令和 7 年 3 月一部改訂、尼崎市）

図 3-70 真夏日・熱帯夜の年間日数の推移（国設尼崎大気環境測定所）

(2) 尼崎市における二酸化炭素排出量の現状趨勢

尼崎市における二酸化炭素排出量の現状趨勢は、表 3-131 に示すとおりである。

インフラや設備などは現状のものを使い続け、追加的な対策を行わないことを前提とし、人口の増減や経済成長などの社会的な動向の変化のみを考慮した場合には、令和 12 年度（2030 年度）において、本市における二酸化炭素排出量は平成 25 年度（2013 年度）と比べると 0.8%増加すると予測されている。

表 3-131 尼崎市における二酸化炭素排出量の現状趨勢

部門など		基準年度	目標年度（現状趨勢）	
		平成 25 年度 （単位:kt-CO <sub>2</sub> ）	令和 12 年度 （単位:kt-CO <sub>2</sub> ）	増減率 （基準年度比）
産業部門	合計	1,825	1,825	±0 %
	農林水産業	3	3	
	鉱業・建設業	38	38	
	製造業	1,784	1,784	
業務その他部門		607	645	6.2%
家庭部門		605	605	±0 %
運輸部門	合計	408	404	-1.0%
	自動車(乗用)	180	176	
	自動車(バス)	5	5	
	自動車(貨物)	197	197	
	鉄道	25	25	
その他（廃棄物など）		57	52	-8.4%
二酸化炭素排出量 合計		3,502	3,531	0.8%

注）各値は四捨五入をして記載しているため、合計値が一致しない場合がある。

出典：「尼崎市地球温暖化対策推進計画」（令和 7 年 3 月一部改訂、尼崎市）

### (3) 尼崎市における二酸化炭素排出量の削減目標

尼崎市における二酸化炭素排出量の削減目標は、表 3-132 に示すとおりである。

平成 31 年 3 月に策定された「尼崎市地球温暖化対策推進計画」（令和 7 年 3 月一部改訂、尼崎市）によると、目標として、「平成 42 年度（令和 12 年度）の二酸化炭素排出量を平成 25 年度比で 50%以上削減」を掲げている。

表 3-132 尼崎市における二酸化炭素排出量の削減目標

部門	平成25年度 (2013年度)	令和12年度 (2030年度)							
	基準年度	現状趨勢			削減量の内訳 (kt-CO <sub>2</sub> )			削減目標	
	排出量 (kt-CO <sub>2</sub> ) A	排出量 (kt-CO <sub>2</sub> ) B	増減率 (%) C=(B/A-1) ×100	国・兵庫県 の取組 D	尼崎市 の取組 E	電力排出係数 の低減効果 F	排出量 (kt-CO <sub>2</sub> ) G=B- (D+E+F)	削減率 (%) H=(G/A-1) ×100	
産業部門	1,825	1,825	±0.0%	315	12	575	923	49.4%	
業務その他部門	607	645	+6.2%	142	13	185	304	49.9%	
家庭部門	605	605	±0.0%	138	30	203	234	61.4%	
運輸部門	408	404	-1.0%	136	6	13	250	38.8%	
その他（廃棄物など）	57	52	-8.4%	15	11	0	26	53.9%	
<b>二酸化炭素排出量 合計</b>	<b>3,502</b>	<b>3,531</b>	<b>+0.8%</b>	-	-	-	<b>1,737</b>	<b>50.4%</b>	

注1) 各値は四捨五入をして記載しているため、合計値が一致しない場合がある。

注2) 基準年度、目標年度は以下のとおり。

基準年度：平成 25 年

目標年度：平成 42 年(令和 12 年)

注3) 二酸化炭素排出量の部門の定義は以下に示すとおりである。

産業部門：製造業、建設業・鉱業、農林水産業に関する工場・事業所のエネルギー消費に伴う排出。

発電所や熱供給事業所における自家消費分及び送配電ロスなどに伴う排出。

業務その他部門：事業所・ビル、商業・サービス業施設のほか、他のいずれの部門にも帰属しないエネルギー消費に伴う排出

家庭部門：家庭におけるエネルギー消費に伴う排出

運輸部門：自動車・鉄道におけるエネルギー消費に伴う排出

その他（廃棄物分野など）：一般廃棄物の焼却処分に伴う排出など

出典：「尼崎市地球温暖化対策推進計画」（令和 7 年 3 月一部改訂、尼崎市）

### 3.3.18 人と自然との触れ合い活動の場

#### (1) 自然公園

調査対象区域及びその周辺における自然公園法（昭和 32 年法律第 161 号、最終改正：令和 4 年号外法律第 68 号）及び兵庫県立自然公園条例（昭和 38 年兵庫県条例第 80 号、最終改正：令和 7 年兵庫県条例第 8 号）に基づく自然公園指定地区は、表 3-133 に示すとおりである。

芦屋市北部及び西宮市中部が瀬戸内海国立公園に指定されているものの、調査対象区域は指定されていない。

また、調査対象区域は、県立自然公園には指定されていない。

表 3-133 自然公園指定地区一覧

種別	名称
国立公園	瀬戸内海国立公園

出典：「自然環境調査 Web-GIS」（環境省自然環境局生物多様性センターHP）

#### (2) 野外レクリエーション地

調査対象区域における主要な野外レクリエーション地一覧は表 3-134 に、調査対象区域における野外レクリエーション地位置図は図 3-71 に示すとおりである。

対象事情実施区域近傍に、県立尼崎の森中央緑地が存在する。

表 3-134 調査対象区域における主要な野外レクリエーション地一覧

No	種別	名称
1	釣場	魚釣り公園
2	公園、緑地	県立尼崎の森中央緑地
3		尼崎スポーツの森
4		蓬川緑地
5		武庫川河川敷緑地
6		尼崎市記念公園

出典：「兵庫県公式観光サイト」（兵庫県 HP）  
「あまがさき公式観光サイト」（尼崎市 HP）



図 3-71 調査対象区域における主要な野外レクリエーション地位置図

### 3.3.19 景観

#### (1) 自然景観資源

調査対象区域には、主要な自然景観資源及び指定文化財は存在しない。

「兵庫県版レッドリスト 2011（地形・地質・自然景観・生態系）」（平成 22 年、兵庫県）によると、調査対象区域には、重要な自然景観は存在しない。

#### (2) 眺望点

調査対象区域における主要な眺望点は表 3-135 に、調査対象区域における主要な眺望地点位置図は図 3-72 に示すとおりである。対象事業実施区域の南西に、魚つり公園が存在する。

表 3-135 調査対象区域における主要な眺望点

No	名称	市名
1	魚つり公園	尼崎市

出典：「あまがさき公式観光サイト」（尼崎市 HP）



図 3-72 調査対象区域における主要な眺望地点位置図